

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和5年1月31日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 高山市青年等就農計画審査会の開催

高山市は1月16日に、令和5年4月から就農予定の6名を対象とした青年等就農計画審査会を開催し、農業普及課は審査員として出席した。

就農予定の6名は指導農家や支援機関（農畜産公社、市、J A、農林事務所）の指導のもと作成した就農計画及び収支計画に基づき、目指す目標や将来構想について語った。

6名は、それぞれ長期研修からの就農、雇用就農からの独立、親からの経営移譲と就農までの経緯は様々であるが、これまでの研修や雇用先、親元での営農において、日頃から積極的に取り組んでおり栽培技術の習得も順調である。

農業普及課では、6名が就農後、計画に基づき早期に栽培技術・経営管理能力を習得できるように継続して支援を行っていく。



【審査の様子】

※右から2人目が新規就農者

■女性農業者 女性農業者経営研修会の開催

1月16日に、下呂・飛騨地域の女性農業者を対象とした経営研修会が、飛騨総合庁舎で開催された。

岐阜県では、農業における男女共同参画を推進することを目的として、女性農業者を指導的な農業者や認定農業者に育成するためのスキルアップ研修を実施している。今回は高山市内の中小企業診断士を講師に招き、オンラインを含め8名の女性農業者が参加して、販売促進のコツや経営指標の見方について学んだ。

参加者からは、普段やらなければと思いつつも思い過ごしてしまう数字のことや販売のことについて考える機会となって大変良かったとの感想があった。

農業普及課では今後も女性農業者の活躍について支援し、担い手の育成につなげていく。



【研修会の様子】

■認定農業者等 経営ビジョンづくりを研修

高山市内の担い手農業者を対象にした、「高山市冬期担い手経営力向上研修会」が、1月17～18日に高山市で開催された。同研修会は、高山市認定農業者連絡協議会と高山市農業経営改善支援センターが毎年開催しているもので、今回は経営管理の専門家や日本政策金融公庫職員を講師に迎え、自身の強みや弱みと外部環境を分析するSWOT分析等のグループワークも交えて、経営ビジョンづくりについて研修した。

農業普及課では、市や関係機関と連携して、今回の研修会開催を支援しており、担い手農業者の経営安定に向けた取り組みや、認定農業者組織への活動支援を今後も継続する。



【SWOT分析に取り組む参加者】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 就農支援塾トマトコース「青年農業士に学ぶ」

1月19日、飛騨地域農業再生協議会（担い手プロジェクト）が開催している「飛騨就農支援塾」のうちトマト栽培技術に特化した「トマトコース」（全6回、24時間）が最終日を迎えた。

12月1日の開講から、関係機関や農業普及課の担当者が講義を行ったほか、12月22日と1月19日には青年農業士を講師に迎え、出前講座（リモート併用）を開催した。

青年農業士からは、就農前後の経験談や自身が取り組む経営内容、さらには研修先や先輩農業者との連携の重要性等について熱弁が振るわれた。研修生らは実践に基づいた講義内容にうなずきながら聞き入っており、質疑応答ではより詳細な情報を求めた質問が多く出された。

農業普及課では、来年度も青年農業士とともに就農支援塾トマトコースで講師を務め、新規就農者の円滑な経営開始を支援していく。



【経営や栽培のポイントを伝授】

■スマート農業 富山県スマート農業普及センターを視察

1月30日、飛騨市の担い手農家を対象に富山県スマート農業普及センターへの視察研修を実施した。

令和3年度に、富山県と岐阜県で合意した「両県拠点施設でのスマート農業体験機会の提供」の一環として開催したもので、農家の他に飛騨市、県関係者の総勢10名で訪問した。

施設概要やスマート農業の普及状況など説明を受けた後、ロボットトラクタや水田用自動給水栓などを見学した。その後、トラクタやドローンのシミュレータによる模擬操作や小型ドローンの飛行操作を体験した。

参加した農家では、スマート農業機械の利用を検討しており、農業普及課では導入に向けて支援を行う。



【ロボットトラクタの見学】

■特産部会 高山南特産部会反省会の開催

1月13日、久々野野菜集荷場において、高山南特産部会反省会が開催された。

反省会では、部会員の減少が問題となっている中、仲間内での声掛けや栽培技術を教えあうことで、仲間づくりに取り組むよう話し合われた。

農業普及課からは多様な栽培品目での共通の問題として、農薬の保管と廃棄方法における安全使用の観点で注意すべきポイントについて説明した。今後も、農薬の購入から使用、廃棄まで責任ある行動をとり事故を未然に防ぐよう普段の管理の徹底など引き続き指導する。



【農薬の管理について説明】

■なす 生産者の個別面談を実施

1月24日になす生産者に対して個別面談を実施した。

面談では昨年を振り返り、来年の栽培に向けての課題などを検討した。なすの個人面談は吉城地区でのみ実施されており、なす生産者の栽培技術向上に役立っている。

農業普及課では、面談によって明らかになった個々の課題を踏まえ、JA等関係機関と連携してなす生産者への栽培指導を行っていく。



【個人面談で課題検討】